２０１７．８．２４　大草

読書メモ（夏休みなので、本論に関係なく、、）

70．今村均　「我ら戦争犯罪人にあらず」復刊　幽囚回顧録　産経新聞社（2010.7.）

（参考図書：角田房子「責任ラバウルの将軍今村均」新潮社　1984.7　）

**＜今村均　「我ら戦争犯罪人にあらず」から＞**

この本は、元陸軍大将今村均の大東亜戦争の回顧録である。この本では、戦勝国が、戦勝国の論理で一方的に日本軍人を裁くもので、不当な軍事裁判であるとの信念に基づき、軍事裁判の不当性と何人かの部下の死刑の不当性を訴えた回顧録である。今村大将は、終生、大東亜戦争は侵略戦争ではなかったと主張した。P.143に、以下の記述がある。

「百年後の歴史は、日本民族の犠牲においてかち得た、有色人種解放の世界史的意義とその聖業とを、必ず賛美するに違いない」

**＜これを契機として、太平洋戦争を考えてみたい。＞**

⇒戦後７２年であるが、太平洋戦争の総括は未だになされていない状況にあるといえよう。この戦争は、果たして侵略戦争であったのか、なかったのか？

日本には、アジア諸国に対し、植民地的搾取をするためのアジア諸国侵略の意図があって、太平洋戦争を開戦したのか？侵略戦争でなかったといいきれるのか？

**＜結論は？＞**

１．侵略戦争とする理由

①日本語による皇民化教育を実施

②日本の宮城遥拝の推奨

③神社造営

④人物・資源の接収

⑤独立を与えなかった（但し、フィリッピンでは1945.5に独立を承認した）

⑥厚生省の報告書（1943.7.1）：「日本がアジア民族の家長として永遠にアジアを統治する使命がある」

２．侵略戦争ではないとする理由

①旧宗主国の排除（イギリス、フランス、オランダ、アメリカ）

②現地人からなる軍隊の創設（戦後の独立につながった）

③学校教育の拡充

④現地語の公用語化（旧宗主国の言語の禁止）

⑤現地人の高官登用

⑥華人やインド人や欧米人の外来諸民族の権利の剥奪と制度化

３．結論は？

以上